

## 医療事故に関するご報告

### 1. はじめに

このたびの医療事故により尊い命が失われましたこと心より哀悼の意を表し、ご遺族の皆さまに深くお悔やみ申し上げます。2024年10月当院において高度貧血で入院した当日に亡くなる医療事故が発生しました。当院は本件を厳粛に受け止め、外部委員を含む医療事故調査委員会を設置し、原因究明と再発防止策の検討を行いました。

### 2. 発生要因の検証

#### ・入院時の心電図・胸部レントゲンの評価について

入院時の心電図はST低下を示し、心筋虚血を疑う所見であるも過去の心電図結果を確認し正常と誤認した。

#### ・入院当日の胸水評価と胸水穿刺について

胸腔穿刺前に、口頭で合併症のリスク説明を行うが同意書は未発行の状態で侵襲的な処置を行った。遅発性の再膨張性肺水腫の合併症を発生した。

### 3. 再発防止策

#### ・「生理検査」結果を確認方法について

電子カルテ「生理結果」タブを改良し、部門システムCITA（タイムライン）機能に「循環器系レポート」を含む一般的な生理検査欄を構築すること時系列で視認しやすいように対策を講じる。

#### ・侵襲的処置後のリスクを共有する体制

胸腔穿刺は侵襲的な処置であり、必ず手技施行前は口答説明を行い、同意書に沿ってリスク等を説明し同意の確認を行う。

侵襲的な処置、治療、検査に関わる医療行為の前に行うタイムアウト遵守について定期的に情報発信を行う。侵襲的な処置を行った診療科医師は、病棟看護師とそのリスクの共有を行い、その後の状態変化がある場合は適切な対応を行う。

### 4. 終わりに

当院は調査結果と提言を真摯に受け止め、再発防止を全力で取り組み医療安全の確保に努めてまいります。

社会医療法人宏潤会 大同病院  
病院長 野々垣浩二